

	部会名	果樹
技術・情報名	いちじく品種「カドタ」と「蓬萊柿」の適応性	
実施機関名	三重県農業技術センター・園芸部	分類 1

1. 技術・情報の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

三重県内では三雲町を中心に「拵井ドーフィン」が栽培されているが、肉質が粗くて甘味や香りも少なく、品質は中程度である。そこで、「拵井ドーフィン」よりも品質の良い品種を探索するために、5品種（拵井ドーフィン、蓬萊柿、ブラウンターキー、ホワイトゼノア、カドタ）について比較検討した。

- (1) 新梢長は、「カドタ」が長く、樹勢が強いことが伺えた。
- (2) 秋果の熟期は、「拵井ドーフィン」、「蓬萊柿」、「カドタ」、「ブラウンターキー」、「ホワイトゼノア」の順であった。
- (3) 収量は「拵井ドーフィン」が最も多く安定し、「蓬萊柿」はやや少なかったが一文字整枝では、「拵井ドーフィン」と変わらなかった。以下、「ブラウンターキー」、「カドタ」の順に多く、「ホワイトゼノア」の秋果の収量はほとんどなかった。整枝法別の収量は、盃状形のほうが多かったが、「カドタ」と「ホワイトゼノア」は一文字整枝のほうが多かった。
- (4) 糖度は、「カドタ」が最も高く、「拵井ドーフィン」が最も低かった。
- (5) 以上のことから、「蓬萊柿」は品質が良く、収量も一文字整枝では「拵井ドーフィン」と同程度期待できるので、今後有望と思われる。

「カドタ」の果実は極小であるが、植栽本数を125本/10a(4m×2m)以上にすれば1.5t/10a以上の収量は期待できるとと思われる。また、果形が卵円形で、果色が黄緑色と特徴的であり、果皮も硬くて輸送にも強く、果実品質も極上であるので、販売方法を工夫すれば有望と思われる。

2) 技術・情報の適用効果

「拵井ドーフィン」を主体に、高糖度な「蓬萊柿」と「カドタ」を導入することにより、品種構成がバラエティーに富み、味も良いのでいちじくの消費拡大が図れる。

3) 普及・利用上の留意点

「蓬萊柿」と「カドタ」は、樹勢が強く枝がかなり太くなるので、新梢管理に留意すべきと思われる。「カドタ」の整枝方法は、一文字整枝法が良さそうであり、また、販売において、パッケージ単位と方法の工夫が必要と思われる。

2. 具体的データ

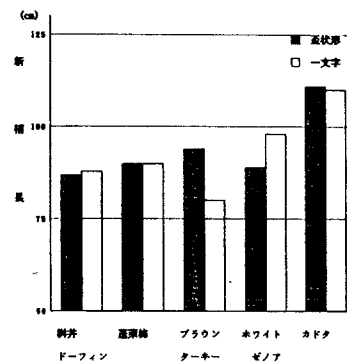


図1. 品種別平均新梢長 (3年生)

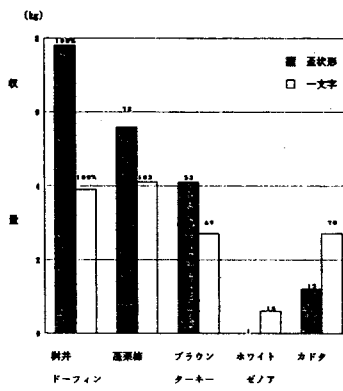


図2. 品種別1樹当たり収量 (3年生)

表1. 品種別収穫期と果実品質

品種名	仕立方	収穫期	果重	糖度
拵井ドーフィン	盃状形	8月19日~11月13日	69.3g	15.2%
	一文字	8・17 ~11・6	66.3	15.6
蓬萊柿	盃状形	9・6 ~11・14	65.1	16.0
	一文字	9・8 ~11・12	65.3	18.3
ブラウンターキー	盃状形	9・22 ~10・16	40.3	15.9
	一文字	9・16 ~11・14	39.7	17.5
ホワイトゼノア	盃状形	10・24	45.0	—
	一文字	9・24 ~10・28	42.9	17.6
カドタ	盃状形	9・17 ~10・23	18.0	18.1
	一文字	9・12 ~10・24	28.4	18.2

3. その他特記事項

研究期間 : 昭和61年~昭和63年 予算区分 : 県単
 研究課題名 : 中山間地帯における園芸作技術のシステム化
 —いちじく品種適応性—
 研究担当者名 : 果樹研究室 前川哲男